

レーゼクライス塾通信

(2000 年 第1号) (4 月 27 日発行)

この通信は、レーゼクライスのホームページ(URL: <http://www.niji.or.jp/home/lese/>)の『塾長のつれづれなるままに』に記述してきたものの**抜粋**です。ゆくゆくは、授業進度等、日々の記録も、ホームページに掲載していきたいと思えます。

◎ (2000/4/16)

苦勞して植えたチューリップが、満開の時期を迎えようとしています。季節は確実に廻っているようです。今日は、桜の花びらの舞う中でソフトボールをしました。いつも合宿で使うグラウンド横には、結構大きな桜の木があるんです。その木から、春風に乗って、桜の花びらが舞ってきます。周りの山は萌黄色！その中に、山つつじの赤が混じって見えます。夏になると、「抜く」のが大変な「あの草」も、今は、芽生えたばかりの新鮮な緑で、外野は、まるで芝生です。



【英検を推奨することに】しました。高2のときに、2級を、そして、高3で準1級を、というのを目標に、励まして行きたいと思えます。やっぱり、英語は鍛えておかないといけませんから。これが実現できれば、英語の受験勉強などは、簡単ですから！

【誇大広告と改正訪問販売法】今まで法的な規制のなかった塾に「訪問販売法」が適用されるようになりました。もともとは、電話等も含めた「訪問販売」の悪質なものを、『消費者保護』の観点から、取り締まれるようにする趣旨らしいのですが、文言に



「学習塾」を入れたため、ややこしいことになっています。いろいろな団体や「業者」が「自主規制」のようなものを作成し、いわゆる「法にふれない」活動を模索しているようです。ただ、例えば、チラシや勧誘について、その内容、金額、責任者名の記載、また誇大広

告の禁止などは、当然と言えば当然のことが多すぎますが。そうした中で、「合格おめでとう」なる大きな掲示板を設置している塾があります。それは、大学入試に関するもので、この時期ですから、今年の合格者を掲示しているものと誰もが考えます。しかし、そこには、去年や一昨年の人の名前が入っているのです。かなり多数！また、受験期の半年前の少なくとも3ヶ月間の「指導」というのが、各種の「自主規制」の標準、つまり「誇大広告」として「法に触れない」範囲のようですが、…！ただ、問題は、そのような宣伝につられる方にあるのかも知れませんが、そうした「宣伝姿勢」が規制を生むということでしょう。残念ですね。

◎ (2000/4/7)

【高校入試と大学入試の結果】

《旧中3生 63 名の進学先》

丸亀高校 46 名、坂出高校 6 名、丸亀城西高校 2 名、善通寺第一高校 1 名、高松高専 1 名、高松工芸高校 1 名、大手前高校 2 名、尽誠高校特進 2 名、誠陵高校 1 名、藤井高校 1 名。

《旧高3 (丸亀 58 名、坂出 17 名) 生及び塾予備校部生 (6 名) の進学先》

京都大 2 名 (経・農)、大阪大 5 名 (工 4 名・経)、神戸大 4 名 (発達・経・農・法)、横浜国立大 1 名 (工)、東京学芸大 1 名、千葉大 1 名 (法経)、大阪外語大 1 名、広島大 1 名 (学教)、岡山大 3 名 (教・経・医保)、奈良女子大 2 名 (理・生)、徳島大 4 名 (医・薬・工・医保)、山口大 1 名 (工)、愛媛大 1 名 (理)、鳴門教育大 1 名、香川大 11 名 (経 3 名・農 4 名・工 2 名・法・教)、香川医科大 2 名 (医保)、大阪市立大 2 名 (商)、会津大 2 名 (コン)、慶応大 3 名 (法・商・理工)、同志社大 4 名 (文・工・法・商)、中央大 1 名 (法)、立命館大 1 名 (経)、関西大 1 名 (経)、近畿大 2 名 (農・薬)、四国学院大 1 名 (社)

高校入試では、丸亀高校の (定員減による) 難化が著しかった。大学入試では、東大・京大が 2 勝 10 敗という今までにない厳しさだった。

【小6に初めての3クラス編成】新高1の募集に合わせて、小6の「編入」も行った結果 (編入は、

学力試験である), 坂出の小6の人数が膨れ上がり, とりあえず算数は3クラス編成ということになった。また, 従来合同で(つまり全員で)行っていた理科・社会の授業も2クラスに分割することにした。(これには, 強力なメンバーの加入という幸運もあった。)

【この間】の主な出来事だけでも整理しておきましょう。3月19日は, 小雨の中, 今年度最初のソフトの公式戦! 決勝で敗れたものの準優勝! 高校入試の合格発表が21日。その日から新高1と編入生(小5~中1)の受付(3日間)。ということは, 21日の前には「募集広告」を作り上げていた訳ですね。それから入塾試験。もちろん平常授業をこなしながらです。そして, 27日には甲子園! 29日はソフトボール大会。ということは, メンバー(チーム)分け等を作らなければなりません。30日は予備校部の3号館から5号館への引越し。31日, 4月1日は新学期の授業体系の完成とか花壇の手入れとか, 各部屋の調整とか。2日は3日の大掃除の準備。・・・こうした作業が乗り切れたのは, たくさんの大学生諸君のヘルプによります。感謝感謝!

【苦境のときこそ】希望を失ってはいけなはずでした。結果は結果として謙虚に受け止めなければなりません。もちろん, 原因は原因として徹底的な追及と, その対策, 対応をとらなければなりません。考えてみれば, 東大の同時合格者が今まで最高で3名であったのを, 一挙に更新しようとした「あせり」と, 「このぐらいなら」という慢心や油断があったのだと思います。その結果, 詰めるべき細部の確認や押さえておくべき点の検証が不十分だったのでしょう。厳しい現状を認めないわけにはいきません。しかし, その厳しさに必死に立ち向かおうとしている子たちなのですから, こちらが諦めたり, 落胆を表現することは到底許されません。この『教訓』を生かさなければいけないと思っています。

◎ (2000/2/29)

【今日このごろ】もうすぐ(3/5)2回目の旧中3の

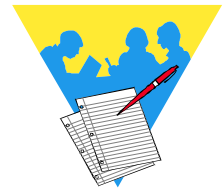


「入試突破模擬試験」です。ということは, また, …! この間の質問・自由学習期間を利用して, 何とか少しでも作っておかなければ, と思っているのですが, 新小5・6, 新中1の授業はありますし, 何より, 「CL学習」(定期試験勉強が不十分な者に, 「無理矢理」やってもらう学習!) が復活しているので, 結構大変です。

【「学習の診断」について】今年からテスト時期が2月中旬に移行したため(従来は1月), 12月に行った第1回の実力テストでの不出来な諸君の一部の人が, 切迫感をもって学習できなかったようです。(なお, 下の数字は坂出・丸亀を合わせたもの)

○中1(72名)…平均181.2点。従来より, 範囲が広がった分(ほとんど中1全範囲), 難しかったようです。200点以上は21名。特筆すべきは, 附属の1・2・3位。他の中学は, あと数点足りなかったようです(トップには)。最高点は232点。

○中2(68名)…平均188.3点。まず特筆すべきは, 附属の不出来! 特に理科・社会は(満足な授業が学校ではなされていないことにも原因はありますが)ひどいものでした。200点以上は21名。東部・白峰・丸亀西でトップ。数点足りず2位だったのが, 附属・坂出。丸亀西は, 1・2位ということで, やっと丸亀校もそれなりの形にはなってきました。最高点は235点。この子たちは, これから新中3として受験学年に突入します。特に悪かった人がきちんと自己反省をして, これから一つ一つを理解して学習してくれればいいんですが……。



◎ (2000/2/23)

【高校入試の倍率決定】今日, 「志願変更」(一旦, 各高校に願書を出し, 倍率公表後, 違う高校に願書を出し直せるという制度) という実に奇妙な「操作」が終わり, 各高校の倍率が決定しました。今年は, 丸亀高校の定員が1クラス分40名減少しました。その結果, 何と84名もの不合格者を出すことになりました。定員減少については, 中学卒業生の減少で, 志願倍率を平均で1.25倍にするという, 県教委の方

針に沿って決定されているものです。そして、それに対して、「まあ、生徒も減るのだからしかたがない」というような「論調」がまかり通っています。しかし、考えてもみて下さい。ほとんどの中学生が高校に進学する現状にあって、なぜ、その倍率を維持



する必要があるのかということです。まして、これほど多くの不合格者を出す必然性が一体どこにあるのか

です。私立のことを考えるというならば、そもそも私立は、自らの努力と魅力によって生徒を集めるのが本筋ではないのか！なぜ、そういう本質的なところについて、誰も問題にしないのか、(妄想であることを願いつつも、「うがった」見方を禁じ得ないが)、はなはだ疑問であると同時に、このおよそ『教育』とは無縁の「公教育」に、様々な荒廃の一端を見る想いがして、怒りを感じている。少なくとも、県教委が、子供たちの側を向いていないことだけは、明らかである。(さすがに文部官僚をトップに戴くだけのことはありますね！) 受益者負担という觀念の導入、経済行為から行われる教育行政こそ、諸々の荒廃の元凶以外の何者でもない。およそ、本当の教育は、そして、(日の丸を揚げ、君が代を歌う「生きる力」をもった「創造的人間」でなく) 本当の創造的人間は、そのようなところからは決して生まれな

いだろう！
【再び小学校英語について】いろいろと考えてきましたが、小学生の「英会話」教室への参加を「容認」しようと思います。従来、英会話教室を含め、他塾への通塾を禁じてきましたが、英会話教室に限り、中学英語の「先取り学習」ではないものは、決して推奨しないまでも、容認するということです。皮相な国際化の解釈(「英会話」をすることが、国際化につながるというような)には、断固反対しますが。この間、様々な諸氏が、かの「英語を第二公用語に」というものに対しても、「小学校への英語導入」に対しても、本質的疑念を表しています。2月18日付の朝日新聞の中でも、加藤周一氏が、論じておられます。手に入る人は、一読を！

◎ (2000/2/12)

坂出で授業し、大至急丸亀へ車を飛ばしても(たまには顔見せねば、という想いで！)、何やら怪しげな「欠席」があったりします。あるいは、今日は新中1の(学力診断クラス分け試験後の)クラス分けの日なのですが、何人かの欠席もいるようです。考えてみれば、『ほとんど欠席がない』という方が、珍しいのかもしれませんが。猛烈な(これで最後の?)「寒波」のときも、特に受験学年の欠席は少なかったですね。半分は気持ちかな。

【その学力診断テストですが】今年から丸亀校でも新中1の2クラス編成を実施するのですが、ちょっと驚いたことに、そのBクラスのメンバーが全員、新規入塾者だということです。テスト内容は、すべて小学校の教科書に準拠していますから、小学校での教科学習が不十分だということになるか、小6からの進級者のできがいかのどちらかです。進級者の「学力」を知っている立場としては、やはり問題は前者にあり、と言わなければなりません。一方で「総合学習」という「幻想」をふりまきながら、実は「不十分な教科学習」



という実態を隠しているのではないのでしょうか。最近話題になっている(大学生にも見られる)「学力不足」という現象を見た思いがします。そして、もしかしたら、そうした「学力不足」は、当初から意図されたものではないかという気もするのです。一方で「独創的な人間をつくる」と言いながら、「考える力」や「生きる力」と言いながら、他方で、考えた

り、独創性を生む行為を「法」の力をもってしても強制する(たとえば「国旗・国歌法」)ことの真意は何かということです。独創性は、「姑息な経済行為」の中からではなく、むしろ『根源的な疑問とそこからしか生まれない発想の転換』によってしか生まれないであろうことは、ちょっと考えてみれば明らかでしょう。従って「意図された」独創性は、むしろ「従順な独創性」とでも呼ぶべきものではないか

と思います。それも一握りの！(一説によれば、ある「社会体制」維持のためには、5%の「指導者」

を養成していけばよいそうですね。)そして大多数は、独創的変革を表現することもない、「目先の利益」と「瞬間的快楽」に生きることが「予定」されていたのではないか、ということです。

【そして「生きる力」を評価する!】このほど発足した「教育課程審議会」のK会長は、次のように述べている。《…前回の教課審は従来の知識の量のみで子どもを判断するのではなく、基礎・基本を徹底した上で、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」を育成することを基本的狙いとして教育内容を改訂した。その「生きる力」をどのように評価するかの問題がある。これを具体化することが第一の役割だと思う。》(日本教育新聞より)この発言を聞くと、「やっぱり」という思いにとらわれるのは、私だけではないでしょう。『生きる力』は、子供たちの長い人生の中で、試行錯誤を繰り返しつつ、しかも努力とか忍耐とか、もしかしたら苦渋とかを経て、それでも「身についた」などとはとても言えないものです。それを、義務教育段階で「評価」などされたら、たまったものではありません。評価する側に対しても、非常識かつ権力的な「締め付け」を行いながら(「職務命令」と「懲戒権」の乱用!),彼らの目指すところは一体何なのでしょう?

◎ (2000/2/6)

【学力テスト中間報告】丸高1と丸高2の「学力テスト」の成績がそろいつつあります。休む間もない忙しい日々の一つの要因だった訳ですが、丸高1は、校内順位1・2・4・5・6・8・11・13・14・15・・・ということになっています。期待していたほどではありませんが、まあまあの結果でしょう!彼ら彼女らがこれからも謙虚に努力を続けることができるよう、こちらも頑張らなければならないと思っています。丸高2は、理系が、3・4・8・・・ということで、もう少しですが、何とか格好がついてきました。問題は、これからですね。

◎ (2000/1/28)

【センター試験結果】丸亀高校の塾生平均 610.5点。いわゆる 700 点アップは、7名でした、一部の人を除き、「そこそこ」できているので、極端なこと

を言わなければ、(実は「まがい物」の)ボーダー的には、ほとんど予定校受験に向かえそうです。今まで、それを目指してやってきた訳ですから、センターごときで「ぐらぐら」しても困ります。「バンザイシステム」の稼動も例年より少なくて助かりました!今は、2次講座の真っ最中です。センター試験の最終結果は2月3日に大学入試センターからの発表があると思いますが、恐らく加重平均で 475 点前後ですから、かなりの上回りということになるでしょう。やはり、心構えと意気込みこそが重要な。

【「部活」について】すでに(1997年)に、部活の運営について文部省からの一定のガイドラインが発表されていますが、相変わらず、「長時間の拘束」が続いています。更には、(聞くとこよれば)、某中学では、「部活を熱心に行わないと内申に響く」と脅す教師がいるようです。(その中学は、有名なアレている学校!)体力の限界までしごき、また途中で抜こうとすると、(実は、狂信的指導者の意図を汲んだ)上級生のいじめが待っています。そうして、愚かな価値観を植え付けるのです。これはもう「生徒



のロボット化」、そして「兵士になる訓練」としか言いようがありません。「ガイドライン→国旗・国家→兵士養成」という流れを今

や部活が担っているのです。「愚かな価値観」を植え付けられた子供たちは、自分で考えることを放棄し、命令一下、直ちに「擬似的戦争行動」に走るようになります。傑作なのは、「試合が近いから、遅くまで練習する」ということを(かの狂信的指導者から教えられた通りに)平気で言ったりします。(ちょっと待て、試合前はコンディション調整の短時間練習だろ!と言う間もなく。)ただ、問題は、そうした洗脳教育に異議を唱えなければならないはずの親の姿勢です。ほとんどの保護者は、好意的か「しぶしぶ」かは別にして、そのような事態を容認しています。だからこそ、この「洗脳訓練」が成立するのです。

